

ある先輩の話

今日は、ある先輩の話をしようと思います。2つ年上のその先輩は、私が静岡大学人文学部1年生の時に、仲間と創部したバレーボール同好会（当初はバレーボールを楽しむ会）の初代名誉会長になって頂いた。先輩と教育を語ると、この私に、「山下君が抱いているものは、今の学校という枠の中ではできないもの。それよりその気持ちがあれば、自分でそうした場をつくり、自由に君の構想を展開していった方がいいし、そうして貰いたい。そうしたら、絶対応援するよ。」と助言して頂いた。私はその言葉通り、翌年ある方々の多大な援助を頂き、学生の身でありながら有限会社を設立。自分達の構想を現実展開し始めたのです。純粹無垢な子ども達が大好きで、中学校の頃から学校の先生にあこがれ、静岡大学教育学部に入學した先輩は、1年生の頃から子ども達と一緒に活動する2つのサークル（その1つのサークルに、先輩の勧めで私も参加しました）に参加し、週何日かある施設の子ども達の勉強をみたり、遊んだり、はたまた子ども達の前で、演劇や指人形劇をやったりと、それこそ大学の授業も熱心に受けながら、積極的にそうした活動に参加しておりました。そして、勿論当然のように地元・島根県の教員採用試験に文句なく合格、あこがれの教師となったのです。

そんな先輩が教師生活3年目の夏、突然静岡に来たとの連絡を受けお会いした。「バレーボール同好会での経験が今生きてるよ、山下君。一昨年初めて赴任した小学校には何もクラブがなかったんで、子ども達にバレーボールでもやろうよ、なんて話しかけたら、10数人が乗ってきたんだ。早速学校の職員会議でその提案をしたら、バレーボール部だけというわけにはいかない、クラブを作るとなると予算がないと反対され、仕方なく学校を離れて別に場所を借り、しかも日曜日に練習をやることにした。勿論子ども達は大喜びで、毎回生き生きと練習にやってきて、一緒に汗をかいているんだよ。他のチームを探しては練習試合もやってもらった。でも、そうなるとユニホームが必要になるんだね。仕方がないから、女房に頼んで自費でユニホームを作ってあげたんだ。そうしたら、子ども達はますます活発に、楽しんで練習をやるようになったんだよね。」と話す先輩の顔も生き生きとしておりました。「しかしね、そうなると学校では、こんな俺のことが問題になってくるんだよね。そりゃあそうさ。職員会議で反対されたことをやっちゃうんだからね。他にもね、今の学校は若い教師が頑張ってるやっていると、大先輩から妬まれる・・・」急に先輩の表情が暗くなってきた。酒を交わしながら、話は深夜にまで及んだ。

今の学校はどうなんだろう？その先輩、今はどうしてるんだろう？もう10年も年賀状を出していない。